



第23号 2014 3/25 どこかし通信

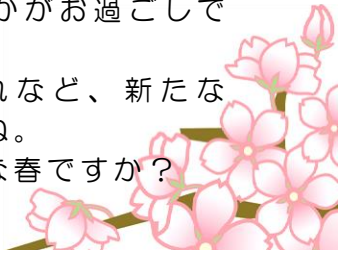
新潟県立看護大学看護研究交流センター「どこでもカレッジプロジェクト」では看護師の学び直しを支援します。



少しずつ春の足音が聞こえてきたような気がいたしますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

春は旅立ちや出会いや別れなど、新たな出発が待っている季節ですね。

みなさまの今年の春はどんな春ですか？



近況報告

3月8日(土)、今年度最後の公開講座は、新潟県上越地域振興局健康福祉部、上越地域在宅医療連携協議会との初の共催により「地域医療・包括ケアの未来を拓く多職種連携 in 上越」が開催されました。

当日は、病院や訪問看護ステーション、地域包括支援センター等に勤務する看護師のほか、医師、薬剤師、保健師、ケアマネージャー、社会福祉士、介護福祉士、行政職員等、非常に多数の職種の皆様の参加がありました。また、本講座に対する申し込みも非常に多数で90名のところ100名まで定員を増やしたものの、すぐに予定数となり、改めて皆様の関心の強さを実感しております。

第1部は「退院支援の充実に向けて」というテーマで行われました。

最初に、上越地域の退院支援の実態調査の概要について、上越地域在宅医療連携協議会 見える化作業実行委員会(上越地域振興局健康福祉部) 飯塚俊子氏より報告の後、退院支援の現状・課題と支援の充実に向けてケアマネージャーの立場からは上越地域居宅介護支援事業推進協議会 山岸義明氏が、病院の立場からは県立中央病院 古澤弘美氏より話題提供がなされました。



第2部は地域医療を担う多職種連携の課題ということで、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターとして当大学の原等子准教授、藤川あや講師が参加し、パネリストは県内における保健医療福祉分野において、多職種連携を実践している4名(さくら聖母の園地域包括支援センター 並木幸江氏、県立十日町病院 清塚美希氏、上村病院介護支援室 新保努氏、揚石医院院長 揚石義夫氏)による話題提供がなされました。

参加者からは、「様々な職種の方々の意見が聞けてよかった」「医療・介護のそれぞれが感じている課題を再認識できた」などのご意見が多数ありました。看護研究交流センター長 平澤則子教授も「今後もこのような共催で、多職種連携に関する講座をぜひとも継続して行ってほしい」と述べ、講座は盛況のうち終了いたしました。



平成26年度のご案内について

平成26年度の公開講座の内容や日程についての詳細は、決まり次第ご連絡いたします。



☆編集後記☆

今年度も多くの方々のご参加やご協力のもと、公開講座の開催や学習教材の充実がはかられました。ありがとうございました。26年度も皆様とともに充実した講座をつくっていきたいと思いますのでよろしくおねがいいたします。